

万引防止システム協

顔認証システム導入1745店

書店の設置店は10店に

日本万引防止システム協会はさきごろ、東京・千代田区の主婦会館プラザで、平成30年度通常総会を開催した。研究委員会の佐久間博之委員長（高千穂交易社）によると、17年のEAS機器設置台数は1



120人が出席した総会会場

万3824台。全体では13年から減少傾向だが、店舗別では図書館・資料室は491台と13年の250台から2倍近くになった」という。

ザエフで、2017年度万引防止システム（EAS）の市場規模に関する調査報告と平成30年度通常総会を行った。政策・研究委員会の佐久間博之委員長（高千穂交易社）によると、17年のEAS機器設置台数は1

万3824台。全体では13年から減少傾向だが、店舗別では図書館・資料室は491台と13年の250台から2倍近くになった」という。

書店のEAS機器設置台数は141台と減っているが、新たな傾向として佐久間委員長は「16年は8店、17年は10店と顔認証システムを設置する書店が出てきた」と報告。顔認証システムの設置店舗数は16年が190店舗だったのに対し、17年は1745店舗と大幅に増えたことを出席した会員社120人に対し伝えた。

最後に佐久間委員長は、アンケート結果からEAS市場は成熟期に移行していると話したうえで、「米ウォルマートなど海外の大手小売業は、EASが最も万引ロスに対する効果的なシステムであるという評価は変わっていない。引続き国内小売業への啓発活動を行いたい」と総括。今回から調査したRFIDと顔認証システムの市場については、「非常に大きな伸びだった。さらに市場を大きくするため、当会としても両技術の機能をアピールしていきたい」と話した。

通常総会では全議案が承認され、稲本義範事務局長（高千穂交易）が会長代行に新任した。稲本会長代行は「身の引き締まる思い。協会の屋台骨が傾かないよう、全うしていきたい」と抱負を語った。